

公益法人 第7期

2017（平成29）年度

# 事業計画書

2017年4月1日から  
2018年3月31日まで

公益財団法人  
ベルマーク教育助成財団

## [事業計画 基本方針]

- 1 [公益事業1] 学校、企業と協力してベルマーク運動を継続する
- 2 [公益事業2] へき地校・病院内学校・被災校等への支援に努める
- 3 [財団運営] PTA 口座統合等、安定運営のための改革に取り組む

### 〈総説〉

ベルマークには公益財団法人として認められた事業が2つあります。

公益事業1は、参加団体（PTA）がベルマークを集め、自校の設備を充実してもらうことを財団がお手伝いします。ベルマーク運動の本体ともいえます

公益事業2は、事業1にともなって発生する財団への寄付を原資にして、生徒数が少なくマーク集めが困難である、へき地校、災害被災校、病院内学級等に財団が教材を寄付します。ベルマークは事業2を実施するために、事業1の仕組みとともに1960年に始まりました。

事業1、事業2の継続が財団の使命です。安定経営のため、2017年度は、組織の簡素化や27000余あるPTA口座の統合等、財務体質強化に努めます。

### 〈現況〉

前提となる現況は以下のとおりです（団体数は直近、事業費は2016年度予算）

参加団体（学校等） 27,375 団体（1月末現在）

協賛会社（市場調査費提供会社） 58 社

協力会社（教材販売および寄付） 15 社

参加団体が1年間に集める点数（=集票点数=円） 4億6000万点（円）／年度

参加団体が購入する教材費 5億円／年度

財団がへき地校、被災校、養護学校等に援助する支払い寄付金 9863万円／年度

財団経常費用予算（2016年度補正後） 4億3,468万円

財団職員数 常勤26人

以上を前提に、2017年度の基本方針は以下のようになります。

## [公益事業1]

〈目標とする集票点数〉 4億5000万点／年度  
対前年度予算比 △1000万点 (△2%)

参加団体（学校等）によるベルマーク集めの総計を上記のように設定します。  
2016年度は4億6000万点と見積もり、ほぼ想定どおりに推移しています。

しかし、3月末にサンスター文具、森永乳業、ネオファースト生命の3社が協賛を脱退、4月から大量集票が見込めるニチレイが新たに協賛参加するものの、初年度とあって十全の寄与は見込みにくいこと、また、職員の出産、育児休業などで、検収のマンパワーに一時的な不足も見込まれることなどから、堅めの目標としました。

### 〈参加団体数の想定〉

参加団体（学校、公民館、図書館等）新年度の団体数については、学校の統廃合等による自然減が続いていますが、広報活動によって新たな加入もあり、概ね当年度なみの維持を目標にします。

### 〈参加団体のお買いもの額の想定〉

約4億5000万円／年度 = 財団の呼びかけなどにより、ここ数年集票点数を上回るお買いものが続いてきたため、昨年より5000万円減と堅めの想定としました。

お買いもの額の10%に相当する額が、協力会社（教材販売会社）から、財団の支援事業（公益事業2）の原資として寄付されます。

### 〈協賛会社数〉

2017年度4月1日時点での予定社数 56社

### 新規企業への訪問と勧誘

引き続き、ベルマークにふさわしい企業を訪問して協賛会社に入るよう勧誘活動をしていきますが、企業の側からの問い合わせも増えてきています。新規参加のニチレイも、先方から「グループとして新たな社会貢献を考えているので話を聞きたい」と11月に訪問があり、当方からのフォローも奏功し、協賛が実現しました。

### 全都道府県で運動説明会

学校の新学年にともなって PTA を担う新役員に向けて、ベルマークの集め方と使い方を職員が説明します。2017 年度は 5～6 月に計 95 会場で開きます。財団職員が手分けして出張するため、運営規模は限界に達しており、2015 年度と同じ会場数です。2016 年は、地震による熊本会場の開催延期などがありましたが、5028 校・団体の 13,856 人の PTA 役員や先生方が会場に来られました。資料やそれを入れるベルマークデザインの記念品をお渡しします。会場には協賛会社の社員も宣伝に来られ、試供品の提供が好評です。

### 〈刊行物〉

#### ベルマーク新聞

毎年 1 月、4 月、7 月、10 月の 4 回、8 ページ建てで発行。約 8 万部。参加団体や協賛会社に読んでいただきます。

#### 財団ホームページ

支援先の学校から、子どもたちの元気な写真が送られてくるたびに、ホームページで紹介しています。また、協賛・協力会社にとっても魅力的なページとなるよう、企業情報も積極的に掲載しています。

#### 朝日新聞への全面広告

本年は 2 月 1 日付朝刊に 2 ページ建てで掲載しました。今年はベルマーク版オナーサー・ビジットでもお馴染みの教育評論家・尾木直樹さんにご協力いただきました。

2018 年も同じ時期を考えています。

### 〈学校外での集票〉

#### 企業等のマーク集めの拡大

企業や労組、自治体がベルマークを東北をはじめとする被災校に贈る申し出が増えています。2016 年度は愛知県豊橋市にも広がりました。今後も財団職員を派遣して収集・集計法を伝え、拡大を図ります。

#### ベルマーク大使の活用

2015 年 12 月に任命させていただいた 7 人の大使に、それぞれのお仕事、生活の場で多大のご尽力をたまわりました。特に、かごしまベルマーク活動推進の会の平嶺光子さんには、3 月の協賛会社・協力会社懇談会で特別講演をいただき、参加者から大きな反響を得ただけでなく、ベルマーク大使同士の交流の場も生まれました。今年も様々な活躍の場を探っていきます。

## [公益事業2]

### 〈東北被災校支援〉

東北被災地ではまだ仮設校舎で授業を受けている子どもたちがいます。財団予算から 2870 万円を用意します。原資となる寄付金の減少に伴い、2016 年度からは 360 万円の支援額減少となりますが、支援を安定して続けていくためです。教材支援、好評なクラブ活動バス代補助にくわえ、2015 年度に始めた「寺子屋」事業、「福島・水俣教育交流」事業への支援を継続します。

### 〈へき地校援助費〉

ベルマーク運動の原点です。教材や理科実験等の教室事業に総額 2434 万円を計上します。

### 〈特別支援学校等援助〉

盲・ろう・養護学校・病院内学級、海外日本人学校への援助に総額 1480 万円計上。

### 〈緊急災害援助〉

熊本地震支援も含め 410 万円を計上します。

### ジブラルタ生命から寄付申し出

へき地校向けの教室事業の充実に 100 万円の申し出を受けています。

### ミズノ財団からの寄付

毎年 100 万円をいただいております、走り方教室等の費用に算入します。

## [財団運営]

### 〈運動運営規定の改定〉

「PTA 預金口座」(通称)の統合などに伴い規定を一部改定します。

### 〈役員報酬改定〉

財団職務手当と合わせた見直しの一環として、常勤常務理事報酬を改訂します。